

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪府立初の（併設型）中高一貫校として 120 年を超える伝統を有する府立富田林高等学校に併設された本校は、先進的な中高一貫教育を通して、世界や地域と協働しながら探究心と豊かな人間性を育み、「地球的視野に立ち、地域や国のことを考えて行動する。国際社会に貢献できるグローバル・リーダー」の育成をめざし、未来に向けた挑戦を続ける。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

(1) グローバルな視野とコミュニケーション力

(2) 論理的思考力と課題発見・解決能力

(3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては確かな学力を育成する授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能にとどまらず、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45 分×7 限授業（35 単位時間（45 分授業））により、2 学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

ウ 各教科において中高一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

エ 中高一貫の Can-do リストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。

オ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人 1 台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒向け）学校教育自己診断における授業満足度を令和 10 年度まで 90%以上を維持する。（R5 89% R6 91% R7 90%）

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）として「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO 等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・学力向上推進委員会が中心となって、中高一貫した進路指導実現のための様々な取組みの具現化を図る。

※（生徒向け）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」を令和 10 年度まで 85%以上を維持する。（R5 85% R6 90% R7 90%）

また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度を令和 10 年度まで 80%以上を維持する。（R5 86% R6 86% R7 86%）

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康・体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。

イ 人権教育を推進するとともに、国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒向け）学校教育自己診断の学校行事満足度を令和 10 年度まで 90%以上を維持する。（R5 95% R6 98% R7 98%）

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、オーストラリア、アメリカ・グアム、ネパール等）の充実及び新たな交流国の開拓

イ ・海外姉妹校及び新たな交流校や、高校との連携による高校姉妹校・交流校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒向け）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通したグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」を令和 10 年度まで 90%以上を維持する。（R5 93% R6 96% R7 96%）

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6 年一貫した教育活動を充実させる。

ア 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中学校および高等学校の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を構築する。

イ 全国的な教育研究会への参加や、全国の教育先進校等の視察を行い、中高 6 年間の教育内容を常に検討し改善を行う。

ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校 Web ページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信を行う。

※（保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度を令和 10 年度まで 90%以上をめざす。（R5 89% R6 88% R7 94%）

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等）と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。

イ 安全・安心な学校づくりに努める。

※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度を令和 10 年度まで 90%以上を維持する。（生徒： R5 95% R6 94% R7 94%）（保護者： R5 95% R6 98% R7 97%）

5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外在校等時間を縮減する。

イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材活用などアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) ア 45分×7 限授業（35単位時間（45分授業））により、2 学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。	(1) ア・45 分×7 限授業（中学校では週 35 単位時間）により、学校生活をデザインする。	(1) ア・(生徒) 学校教育自己診断における授業満足度 90 % 以上を維持する。 [90%]	
	イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。	イ・各教員がスーパーサイエンスハイスクールであることを意識し、探究的要素を取り入れた「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業デザインができるよう研究する。 ・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。 ・中高合同の地域公開研究授業（DAY）を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。 ・生徒による「授業アンケート」を7 月、12 月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。	イ・(教員) 学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」を意識して授業をしている。」90%以上を維持する。 [100%] ・(生徒向け) 深く考えさせる授業満足度 90%以上を維持する。 [94%] ・(教員) 授業検討機会満足度 90%以上を維持する。 [94%]	
	ウ 各教科において中高6 年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。	ウ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。	ウ・カリキュラムマネジメントした内容（富中探究学習ハンドブック）を活用し、カリキュラムの進め方を改善する。	
	エ 6 年一貫のCan-do リストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。	エ・毎朝始業前に7 分間の「モーニング・イングリッシュ・タイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。 ・オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュワールド」等を1・2 年生で実施する。 ・英語に係る外部試験により中学2・3 年生の学習到達度を測る。	エ・(生徒) グローバル教育推進度 90 % 以上を維持する。 [96%] ・外部試験の到達目標を下記のとおりとする。 中2：C EFR A 1 相当以上が 80 名以上 中3：C EFR A 2 相当以上が 80 名以上	
	オ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1 人1 台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。	オ・「オンライン学習研究委員会」を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。 ・ICT 等によるすき間時間を活用した学習方法や個別最適化に対応した学習方法を研究する。 ・デジタル教科書を導入し、研究実践を行う。(一部教科)	オ・(生徒) 学校教育自己診断「学校は1 人1 台端末を効果的に活用している」90%以上維持する。 [97%] ・端末に記録された個々の学習記録を担当が毎日管理し、学年からは月ごとのフィードバックを行う。	

2 高い志をはぐくみ、 進路実現をめざす取組み	(1) ア・SSH として「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO 等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。	(1) ア・探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを総合的な学習の時間に実行し、その成果を分析する。 ・広域外部サポーターを活用し、社会探究ベーシック、社会探究アドバンス、提案型探究について実施（10 月～3 月）し、課題発見や課題解決能力を育成する素地を養う。 ・SSH の取組み強化策として総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を充実することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。	(1) ア・（生徒）学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度 90%以上を維持する。[90%] ・文部科学省と協力し、全国的な「総合的な学習の時間」の発展に貢献する。	
	イ・中高一貫した進路指導実現のための学力向上推進委員会が中心となって、様々な取組みの具現化を図る。	イ・総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会 3 回以上設ける。（講座、講演、出前授業等） ・学力向上推進委員会を定例化し、機能強化を図る。 ・大学進学に係る生徒面談（未来面談）を実施する。 ・大学入試に係る説明会（未来セミナー）を実施する。 ・生徒全員に学力推移調査等（外部試験）を実施し、将来の目標を早期に発見させる。 ・毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。	イ・（生徒）将来の生き方や進路について考える機会満足度 90%以上をめざす。[86%] ・中高学力向上推進委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修の 2 回以上の実施をめざす。 [2 回] ・各教科での学力分析を行い、結果と対策について中高連携した校内プレゼンテーションを 1 回以上する。 [1 回] ・学力分析結果について保護者説明会を 2 回以上実施する。 [1 回] ・地域学校協働本部との協働による大学入試説明会の実施（1 回以上）をめざす。[1 回] ・広域外部サポーターとの連携により学習優先日に中学・高校教員、高校生、地域人材（大学生等）を活用した学習支援の 20 回以上の実施をめざす。[20 回]	

府立富田林中学校

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み	(1) ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに中高一貫した部活動指導を図り、文武両道をめざす。	(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を育むべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導の拡大を図る。 ・中高一貫した部活動、地域と連携した部活動をめざし、指導体制を整える。	(1) ア・体育祭の充実について検討し、実施する。 ・部活動改革委員会を機能させ、部活動の改革を進める。 ・中高合同又は連携して実施する部活動を1部増やす。 ・地域と連携して実施する部活動について検討する。	
	イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。	イ・中学校段階に相応しい人権研修を計画・実施する。 ・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身に付けさせる。	イ・課題に合致した人権研修、生徒指導研修を実施する。 ・人権教育推進委員会を定例で開催し(週1回)中高系統性のある指導を行う。	
	ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。	ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「メークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。 ・生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会(高校)との連携を強化し、中高全教職員での共有化を図る。 ・府又は市の生徒会サミットに参加し先進校の仲間づくりを学ぶ機会を設ける。 ・対話的、演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。	ウ・「メークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取組みについての実施をめざす。 ・計画的な生徒指導を実践するため、パッケージ化された生徒指導推進プログラムを実践する。 ・(生徒)学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度90%以上維持をめざす。[89%] ・(生徒向け)学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」80%以上[73%]、「相談できる友達・先輩後輩等」90%以上[87%]をめざす。 ・府又は市の生徒会サミットに1回以上参加する。 ・対話的、演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成の取組みについて文化祭での発表をめざす。	
	(2) ア 国際交流(マレーシア、台湾、ベトナム、オーストラリア、アメリカ・グアム、ネパール等)の充実及び新たな交流国の開拓	(2) ア・高校との連携も含め、海外での交流の可能性を探りつつ、ICTを活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。	(2) ア・多くの生徒が海外の中・高校生との3カ国以上の交流をめざす。[3ヶ国]	
	イ・海外姉妹校及び新たな交流校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。	イ・海外姉妹校との交流方法を工夫改善し、異文化を理解する態度を育む。 ・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した持続実施可能な海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。 ・企業との連携により、海外研修の情報を提供する。	イ・海外姉妹校との交流を充実させる。 ・持続実施可能なグローバルプログラムについて内容のリニューアル等をグローバル委員会で検討する。(1回/週) ・(生徒)グローバル教育推進度90%以上を維持する。[96%]	

府立富田林中学校

4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携	(1) ア 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、中学校および高等学校の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を構築する。	(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・策定した「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を踏まえ、高校と共に共通認識の深化を図る。	(1) ア・(教員) 分掌・教員間での中高連携満足度 70%以上をめざす。[65%] ・(教員) 教育理念を意識した教育活動 90%以上を維持する。[100%] ・(保護者) 教育方針の明確化 90%以上維持する。[91%]	
	イ 全国的な教育研究会への参加や、全国的教育先進校等の視察を行い、中高 6 年間の教育内容を常に検討し改善を行う。	イ 全国的な教育研究会、先進中高一貫校・SSH 校・コミュニティ・スクール校等の先進的な取組みを視察・情報収集等を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。	イ 先進校等の情報を収集し、職員会議等での情報共有（2 回以上）をめざす。[2 回]	
	ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクール、スーパーサイエンスハイスクールとして相応しい学校 Web ページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信を行う。	ウ・ 4 年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。	ウ(保護者) 学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。[94%]	
	(2) ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター(同窓会・企業・大学・自治体・NPO 等)と連携のもと社会貢献を推進し、魅力ある学校づくりをめざす。	(2) ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開き、より多くの方々に学校運営に参加して頂く。 ・コミュニティ・スクール推進委員会を組織し「めざす学校像」の共有化を図り、中高一貫した取組みを進める。 ・コミュニティ・スクール広域外部サポーターとの連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。 ・地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。	(2) ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方々が学校運営に参画した熟議開催(2 回以上)をめざす。[4 回] ・学校運営協議会委員が教育活動に係り教育活動を推進するコーディネーターズ会議を年 3 回以上開催し、より企業等との連携を充実させる。[3 回] ・産官学協働による学びの成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。 ・(生徒) 社会貢献意識育成満足度 95%以上を維持する。[95%] ・河川清掃などの地域でのボランティア活動の 1 回以上の実施をめざす。[1 回] ・生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動の 1 回以上の実施をめざす。[2 回]	
	イ 安全・安心な学校づくりに努める。	イ・教員だけでは対応できない教育課題(ヤングケアラー等を含む) 解決のための人材(SC、SSW、識者等)を「学校支援チーム」に効果的に配置する。 ・中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。	イ・専門家人材(SSW、SC、識者等)を活用し、機関連携や研修・講演等の 1 回以上の実施をめざす。[3 回] ・「学校支援チーム」連絡会議の 10 回以上の開催を維持する。[10 回] ・連絡手段体制を確立し、想定訓練等の 1 回以上の実施をめざす。[1 回]	

5 働き方改革の推進	(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則り、中高連携した部活動指導を行うとともに地域と連携した部活動の在り方についても検討する。その上で、ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。	(1) ア・府下全校一斉退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外在校等時間の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校等時間が上限（45 時間／月）を超えないようにする。	(1) ア・ノークラブデー、全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外在校等時間（45 時間/月）以下を維持する。[43 時間/月（2 末）] ・時間外在校等時間が年間 720 時間を超える職員を 0 名にする。[4 名（2 末）] ・各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、全校一斉退庁日に掲示板等での呼び掛けも行つて、定時退勤を促す。	
	イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材を活用するなどアウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。	イ・校務（事業等）を見直すことで業務の軽減化を図る。 ・教育活動において民間企業と連携するなど、アウトソーシング化を図る。	イ・校務（事業等）を2つ以上見直し働き方改革を進める。[2 つ] ・(教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 80%以上を維持する。[82%] ・(教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 80%以上を維持する。[88%]。	